基本政策 I 人間としての在り方生き方の軸をつくる

政策 目標

「キャリア在り方生き方教育」をすべての学校で計画的に推進し、すべての子どもに、社会で自立して生きていくための資質・能力や態度とともに、共生・協働の精神を育みます。

主な課題

- 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程であるキャリア発達を促すため、各学校の実情に応じて、全ての市立学校で「キャリア在り方生き方教育」を推進しており、引き続き子どもたちに社会的自立に向けて必要な能力や態度とともに、共生・協働の精神を計画的・系統的に育てる教育が求められています。

主な取組成果

- 「キャリア在り方生き方教育・進路指導担当者研修会」を年間3回実施し、訪問研修等を117回実施しました。また、「市制100周年担当者会」を年間3回実施し、「学校e～ね★サミット」を「キャリア在り方生き方教育」に位置付けて全校で取り組むとともに、「全国都市緑化かわさきフェア」などの取組を推進することで各校の教育活動の充実を図ることができました。「キャリア在り方生き方ノート」「キャリア・パスポート」の活用については、職員研修用動画を作成し発出することで教職員の理解を深めました。

教育改革推進会議における意見内容

- 参考指標では、目標値に届かないものがあるとはいえ、大部分の子どもたちで良好な結果が出ている点は高く評価できる。「全国学力・学習状況調査」では家庭の蔵書数を調査しているのも、そのデータもかけ合わせ、最も困難を抱える家庭の子どもの達成状況を見ておくことが、共生・協働を軸とする学校教育にとって重要だと思います。
- キャリア在り方生き方教育における「アントレプレナーシップ教育」の全小中高校での更なる実施を図っていただきたい。そのために、川崎キングスカイフロントとのコラボレーションを実現していただきたい。
- 本来「キャリア在り方生き方教育」は、日頃の（各教科の）授業とつながるべきものと思う。「日頃の授業での学びが、将来の自分自身の在り方生き方につながる」ことの実感につながるように、授業との連動を大切に組み込んでいただくことを期待しています。

今後の取組の方向性

- より学校の特色を生かし、今日的な教育課題に対応したカリキュラム・マネジメントに向けて、具体性のある研修を行っていくほか、「キャリア在り方生き方ノート」とともに、「キャリア・パスポート」の活用について、効果的な活用方法など、具体的な取組を発信し、活用の促進に取り組みます。また、リーフレット配布等による保護者等への理解促進を継続していきます。

参考指標				実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R7年度)
指標名	指標の説明								
自己肯定感	「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	79.1% (R3(2021)年度)	81.7%	84.4%	85.3%	-	-	83.0% 以上
		中3	76.4% (R3(2021)年度)						
将来に関する意識	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	77.3% (R3(2021)年度)	77.7%	79.9%	80.3%	-	-	90.0% 以上
		中3	65.2% (R3(2021)年度)						
自己有用感	「人の役に立つ人間になりたいと思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	96.0% (R3(2021)年度)	95.7%	96.3%	96.9%	-	-	97.0% 以上
		中3	94.6% (R3(2021)年度)						
チャレンジ精神	「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	73.0% (R3(2021)年度)	74.7%	—※	—	-	-	82.0% 以上
		中3	66.0% (R3(2021)年度)						
チャレンジ精神 【第3期から設定】	「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】	小5	— —	78.5%	74.9%	75.0%	-	-	82.0% 以上
		中2	— —						
共生・協働の精神	「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	— —	—	—	—	-	-	—※※
		中3	— —						
社会参画に関する意識	「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	54.2% (R3(2021)年度)	55.6%	—※	—	-	-	56.0% 以上
		中3	39.5% (R3(2021)年度)						

※令和5（2023）年度以降の出典元の調査において設問がなくなったため、実績値の記載はありません。

※※平成30（2018）年度以降の出典元の調査において設問がなくなったため、目標値の記載はありません。